

Learning English
Japanese People

DAITO BUNKA UNIVE

スピーチのテーマ Diversity

第19回 大東文化大学学長杯 英語スピーチコンテスト



日時

11月3日(土)

開演 / 12:30 開始 / 13:00

場所

大東文化会館ホール

東武東上線「東武練馬駅」徒歩3分

- ◆コンテスト 高校生の部10名出場 大学生の部10名出場
- ◆来場 申込不要、来場無料
- ◆お問い合わせ 国際交流センター Tel 03-5399-7323

駐輪・駐輪はできません。お車・バイク・自転車での
ご来場はご遠慮ください。

後援

埼玉県(高校生の部) 大東文化大学青桐会

協賛

カシオ計算機株式会社 丸善雄松堂株式会社
株式会社アルク



大東文化大学英語スピーチコンテスト

検索

第19回 英語スピーチコンテスト

本日のスケジュール

12:30	開場
13:00	開会行事
13:15	高校生の部・前半5名
13:40	(休憩5分)
13:45	高校生の部・後半5名
14:10	(休憩5分)
14:15	大学生の部・前半5名
14:40	(休憩5分)
14:45	大学生の部・後半5名
15:10	(休憩10分)
15:20	スペシャルイベント (“Diversity” フォトコンテスト)
15:50	(休憩)
16:00	講評と結果発表・表彰
16:10	閉会行事

目次

本日のスケジュール、目次	表紙裏
挨拶 学長、国際交流センター所長	1
挨拶 英語学科主任、英語スピーチコンテスト各賞	2
英語スピーチコンテスト 概要	3
本選出場者 高校生の部	4 - 5
本選出場者 大学生の部	6 - 7
スペシャル・イベント、過去のテーマ	8
英語スピーチコンテスト実行委員会、後援・協賛・協力	9



第19回英語スピーチコンテスト実行委員会委員長
大東文化大学 学長

門脇 廣文

第19回大東文化大学英語スピーチコンテストに参加された皆さま、またご来場いただいた皆さま、ありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

さて、大東文化大学は今年、95周年を、さらに5年後には100周年を迎えます。その建学の理念は、一言で「東西文化の融合」と言っていますが、全文は次のようなものです。

「漢学(特に儒教)を中心として東洋の文化を教授・研究することを通じて、その振興を図ると共に儒教に基づく道義の確立を期し、更に東洋の文化を基盤として西洋の文化を摂取吸収し、東西文化を融合して新しい文化の創造を目ざす。」

まず、「漢学(特に儒教)を中心として」とあります。この「漢学」というのは、中国の学問のことです。この「漢学」を中心として、「東洋の文化を教授・研究することを通じて、その振興を図ると共に儒教に基づく道義の確立を期し」とあります。この「道義」というのは、「人として行うべき正しい道」のことです。「モラル」のことです。その「モラル」を身に着け、「更に東洋の文化を基盤として西洋の文化を摂取吸収し、東西文化を融合して新しい文化の創造を目ざす」ということです。

そして、21世紀に入って加速するグローバリゼーションの現実と課題に対応する新しい理念として「アジアから世界へ—多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」を打ち出しました。これは本学の「Diversity」宣言と言っても良いものです。

スピーチコンテストの今回のテーマはこの「Diversity」ですが、皆さんが今日「英語」でスピーチされる内容はどのようなものでしょうか。「Diversity」にはさまざまな側面がありますが、皆さんがスピーチされる内容は「多文化共生を目指す新しい価値の創造」になっているのでしょうか。どのような内容なのでしょうか。それがとても楽しみです。

第19回英語スピーチコンテスト実行委員会副委員長
大東文化大学 国際交流センター 所長

岡本 信広



第19回スピーチコンテストが始まります。今回のテーマは「Diversity(多様性)」です。今日はスピーチコンテストのテーマについて再度確認してみましょう。

社会の進歩にとって多様性は欠かせないものです。多様性があるからこそ、新しいものが生み出されます。私たちは、ニューヨーク、ロンドンで流行したものと聞くと東京で生み出されたものと言われるよりもワクワクします。ニューヨーク、ロンドンで生み出されたものが私たちを魅了するのは、そこが人種のるつぼだからです。ニューヨークやロンドンには、宗教や言葉や文化が全然違う世界中の人々が集まっています。これらの都市で流行するということは、多様な人々にも受け入れられている、つまりどんな人でも楽しめる可能性があるから私たちは魅了されるのです。

多様性は新しいものを生み出します。アーティストやメーカーたちが、ニューヨークやロンドンで新しい絵画や演劇、新しい製品やサービスを生み出しています。これは、アーティストたちは、自分のもっている文化や考えでは思いつけなかったことが、他の文化の人と接触することで刺激を受け、新しいアイデアにつながるからです。メーカーたちは自分が考えもしなかった面白い製品を生み出し、それを見てさらに新しいことをやってみようと思うからです。

このように自分と違う人を受け入れる、多様性を認める人になることは社会の発展につながります。2020年の東京オリンピックが近くなり、東京でも海外の人が増加するとともに、障害を持つ方も含めてかなり多様な人々を受け入れる素地ができてきました。この時に肌の色や話す言葉や着ている服をみて「違い」を拒否するのか、それとも興味を持って「違い」を受け入れるのかによって、その人の今後の人生、そして社会には違いが出てきます。

皆さんの「多様性」に関するスピーチを非常に楽しみにしています。今回、多様性のスピーチを通じて、みなさんが大きく成長されることを期待しております。



大東文化大学 外国語学部英語学科 主任

鈴木 敬了

英語のDiversity

今回のテーマはdiversityです。近年、Standard Englishという概念に対して各地の英語を等しく見るEnglishesという概念が広がりつつあります。これもdiversityですが、歴史的に見ると英語そのものがdiversityと言えます。ある統計によると、現代英語の語彙の比率は、本来語(古英語)25%、ラテン語またはフランス語系50%、ギリシャ語系10%、古ノルド語などの北

欧語系5%、その他の言語が10%と多様です。その理由は英国の「侵略の繰り返しの歴史」にあります。紀元前1世紀以降、ローマの侵略があり、ラテン語がもたらされました。5世紀には現在の北ドイツ周辺からゲルマン民族であるアングロ・サクソン族が先住民族のケルト族の防衛にやってきますが、逆に征服してしまいます。これが英語の始まり(古英語)です。ケルト族は北のスコットランドに、一部は海を渡りアイルランドに、西はウェールズやコーンウォールに逃げて生き延びます。アングロ・サクソン族の言葉は、ドイツ語と同じルーツを持っています。ちなみにEnglishは「アングル族の言葉」、Englandは「アングル族の国」を意味しています。8世紀にはスカンジナビアからバイキングが来襲し、彼らもまたゲルマン民族で古ノルド語をもたらします。注目すべき例は代名詞のthey-their-themです。1066年には北フランスに住むノルマン人による英国征服が起きます。これにより約300年間、フランス語が公用語になり、多くのフランス語が英語に入ります。また6世紀以降のキリスト教布教、16、17世紀のルネッサンスによりフランス語の元の言語であるラテン語も多く流入します。これらの借用語(loanword)は多くの類語を生み英語表現の豊かさに貢献しています。例えば古英語由来のask、フランス語からのquestion、ラテン語からのinterrogateといった具合です。多少の意味の違いやスタイルの違いが見られますが基本的意味は同じです。

皆さんにとってのdiversityは何でしょうか？ 最後に出場の皆さんにエールを送ります。

Everyone is nervous when giving a speech. Just try to relax and focus on what you want to say.
Good luck!

英語スピーチコンテストの各賞及び副賞

2部門共通	学長賞	1名	商品券 ※各最優秀賞から1名を選出
大学生	青桐会長賞(最優秀賞)	1名	商品券、EX-word (CASIO)
	優秀賞	1名	商品券、文具(丸善雄松堂)
	優良賞	1名	商品券、英辞郎第九版&キクタン TOEIC®990(アルク)
	奨励賞	1名	商品券、キクタンTOEIC®600, 800(アルク)
高校生	埼玉県知事賞(最優秀賞)	1名	図書カード、EX-word (CASIO) ミニ地球儀(埼玉県)
	優秀賞	1名	図書カード、文具(丸善雄松堂)
	優良賞	1名	図書カード、英辞郎第九版&キクタン TOEIC®990(アルク)
	奨励賞	1名	商品券、キクタンTOEIC®600, 800(アルク)
2部門共通	参加賞		図書カード ※受賞者を除く大学生及び高校生

コンテスト概要

大東文化大学主催第19回 英語スピーチコンテスト テーマ: Diversity

開催場所	大東文化会館 ホール
開催日	2018年11月3日(土) 開場12:30 / 開始13:00
大会出場者	高校生の部 10名 大学生の部 10名

発表形式

- ①本選審査は手元原稿なしの英語による発表。制限時間は5分(超過は減点対象)とする。
- ②内容はテーマに沿っていれば自由。但し、未発表に限る。剽窃は厳に禁止する。従って、引用はそれと分かるように表現で明示すること。これらに違反した場合、失格となる。
- ③会場は300人収容のホールで、照明を落とし、発表者にスポットライトが当たる。演壇には演台やマイクはなく、発表者の姿が聴衆から見える状態で、肉声で発表する。
- ④発表時、直立不動である必要はなく、立ち位置の中心から1~2メートル程度に動いても構わない。但し、視覚その他に訴える道具の使用及び過度な演出・演技は禁止する。
- ⑤服装は自由だが、着ぐるみや奇抜な衣装は認めない。

出場資格

- ①高校生の部(全国)及び大学生(大東生のみ)の部(共通)

下記のA~Cに該当する者は参加できない。違反して出場した場合、失格となる。

- | | |
|---|---|
| A | 満5歳の誕生日以後に、通算1年以上または継続して6か月以上、英語圏に居住した者。 |
| B | 日本国内、海外を問わず、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校(アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語行っている学校を含む)に6か月以上在籍したことのある者。 |
| C | 保護者または同居親族に、英語を母語とする者もしくは英語圏*出身の者がいる場合。
*「英語圏」とは、英語を(i)第一言語、(ii)公用語、又は(iii)公用語に準ずる言語として使用する国・地域を指す。具体的な国名・地域名は本要項の巻末に掲載する。 |

- ②高校生の部は、一校最大2名まで応募できる。個人で応募する場合、予め自校の英語担当教員へ確認する。
- ③大学生の部は、大東文化大学の学部生が応募できる。
- ④個別事案に関する参加資格の有無について、最終的な判断は大東文化大学が行う。

審査基準(4つの観点)

区分	評価項目	満点
Content	Theme-relatedness テーマへの関連度(全体テーマにどの程度関連しているか)	15点
	Originality 内容の独創性	
	Organization 構成の適切性	
Language	Grammar correctness and richness 文法の正確さと豊かさ	25点
	Vocabulary richness and correctness 語彙の正確さと豊かさ	
	Segmental clarity 個々の子音母音の明瞭度	
	Prosody リズムやイントネーションの適切さ	
Delivery	Unbroken delivery 詰まらずに発信できた度合い	20点
	Voice projection 声量の適切さ	
	Use of eye contact and gestures 視線や身振りの適切さ	
	Appropriate rate of speech and audience awareness 話す速度の適切さと観客への意識(非母語話者が多い観客に内容を伝えようという意識が見られるか)	
Impact	Overall impact 全体インパクト(スピーチは目的を達成したか)	10点

中陣 春菜 *Haruna Nakajin* 埼玉県立春日部女子高等学校1年

Only One Book

今回のスピーチで、私がリスナーの方々に伝えたいことは3つあります。芸術のすばらしさ、時間の捉え方、そして、本の多様性です。たった一冊の本の中にだけでも、知識、歴史、生活、学問、科学、芸術…世界のありとあらゆるものが詰め込まれています。そのことを知っていただくために、私の本に対する熱意と敬意を持って、私が思い描く本の世界へ皆様を誘います。

井上 咲季 *Saki Inoue* 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎1年

Seek Out Diversity

スピーチ。聞く人の心をノックし、対話せずとも互いを分かり合える場所。そんな不思議なこの場所が好きだ。今回幸いにも本選に選んでいただいたのだからこのほんのりとした、毛先の震える凜とした空気をただ感じるのではなく、生み出す一員になりたいと思う。「多様性」に満たされたこの世界に波紋を作れるように。

白川 剣都 *Kent Shirakawa* 茨城県立竹園高等学校3年

The Diversity of Humanity

LGBTや差別といったことが近頃話によく挙がり、今でも多くの方がそれらのことで苦しんでいることを知りました。スピーチはそれらを様々な視点から読み解いています。これまでの自分を自身に問うてみてください。多くの方が多様な考え方向き合うきっかけを創れるように頑張りたいと思います。

菊谷 真理 *Mari Kikutani* 東京都立国分寺高等学校2年

The Diversity of Languages in Singapore

“Now what time ah?”こんな言葉を耳にしたら、みなさんはどう思うでしょうか。本日は、私が実際に訪れて発見した、シンガポールの言語の多様性についてお伝えします。昨年に引き続き二回目の挑戦です。「日本にはない」多彩な世界を、みなさんに楽しんでいただけたらと願います。

小野菜々子 *Nanako Ono* 淑徳高等学校1年

We Are All Wonders

スピーチ原稿を書くにあたり、多様性とその意義について身近な経験をもとに深く考えることができました。スピーチでは私の考える多様性を皆さんに伝えると同時に、皆さんの発表を聞いて多様性について異なる視点からも理解を深めたいと思っています。悔いの残らないように、自分らしいスピーチができるよう一生懸命頑張ります。

小林 怜以 *Ray Kobayashi* 東京都立新宿山吹高等学校3年
Instruction Manual of Me: How to Work Well with Persons with Developmental Disabilities

発達障害者は外見が普通に見えるため理解されないことが多い。しかし、コミュニケーション力が弱いため困っていることを伝えることもままなりません。そこで、私自身を例として、どのように扱って欲しいのか伝えたいと考えました。こうしたバリアを下げることは外国人、障害者、老人、子供などにとっても役に立つはずです。英語はもちろん人前で話すことも苦手ですが、今年のテーマが「Diversity」と知り、思い切って応募しました。

實方明日希 *Asuki Jitsukata* 埼玉県立坂戸高等学校1年
The “Native” Myth

この英語スピーチコンテストの壇上に立てることを心から嬉しく思います。私は今日まで多くの先生方、そして友達の力があってこのスピーチを完成させることができました。その感謝と皆様に敬意を込めてスピーチさせていただきます。皆様に別視点からの英語について『アリかも』と思って頂けると嬉しいです。

須田陽菜子 *Hinako Suda* 川崎市立橘高等学校3年
For Building a Society That Empowers Women

私は、昨年の校内のスピーチコンテストの発表において一度失敗を経験しました。その中で、一発勝負の怖さや本番の緊張感を、身をもって感じました。だからこそ、私はこの大きな舞台でもう一度挑戦し、自分の力を試してみたいと思っています。そして、お世話になった先生方、そして母に感謝を伝えられるよう、頑張ります。

関 萌花 *Moeka Seki* 本庄第一高等学校2年
Overcoming Challenges

本選に出場でき大変嬉しく思います。今日までネイティヴの先生と沢山練習を積んできました。自分が今持っている精一杯の力で一人でも多くの人に私の思いを伝えられるように頑張ります。

熊谷 杏香 *Momoka Kumagai* 川崎市立橘高等学校3年
The Disappearance of Languages

私のクラスには、帰国子女や留学経験者など、英語が得意な人が多いです。正直なところ、私は自分の英語にあまり自信がありません。でも、英語がうまくなりたいと思って勉強しています。この大会への挑戦もその1つです。大きな舞台での発表に緊張しますが、何よりスピーチを楽しみたいと思っています。

小川 晴菜 *Haruna Ogawa* 外国語学部英語学科3年

What Is “Family”?

本選出場大変嬉しく思っております。Diversity という難しいテーマに関して、文章を作成するのはかなりの時間がかかりましたが、普段は考えない部分に目を向けることが出来ました。当日は全力で練習の成果を出しますので応援宜しくお願い致します。

千葉紗智子 *Sachiko Chiba* 外国語学部英語学科3年

The Most Diverse Sport of All

Diversity と聞いて1番に結びついたのが、私の好きなスポーツでした。有名ではありますが、そこまで人気ではないスポーツです。私のスピーチで少しでも興味をもってもらえたらと思います。初めてのスピーチコンテストで緊張しますが、自分のパフォーマンスがしっかりできるように頑張ります！

直江 政幸 *Masayuki Naoe* 外国語学部英語学科3年

Consider Diversity in Love

今回は、自分の意見を発信するだけでなく、他の人の意見を直に聞くことが出来る良い機会なので、とても楽しみにしています。本選では、自分らしさを表現できるようなスピーチをしたいと思います。

山口 夏子 *Natsuko Yamaguchi* 外国語学部英語学科2年

The Protection of Biodiversity Is the Protection of Human Beings

今回は2回目の出場になります。今回はテーマが難しく、原稿作成していたときいっぱい困難がありました。しかし、このテーマを通じて、今まで考えたことのないことをいっぱい考えるようになりました。意味深く、チャレンジのあるテーマでした。2回目ですが、とても緊張しています。まだまだ未熟ですが、前回学んだことを生かして、最善を尽くしたいと思っています。よろしくお願ひします。

松村 悠香 *Yuuka Matsumura* 外国語学部英語学科3年

Dialect and Diversity

初めて出場させていただくことになりとても緊張していますが、このスピーチコンテストを通して様々なことを学び、新たに自分を変える機会になればと思っております。精一杯頑張ります。

今泉 渉 *Wataru Imaizumi* 外国語学部英語学科3年

Exclusion of Students' Diversity by School

こんにちは！本日はスピーチコンテストということで気合いが入っております。会場の皆様楽しんでいただける、そして自分も楽しめるそんなスピーチがしたいです。終わった後、皆様の心に私の言葉が残っていたら大成功です！頑張ります！

露木 恵 *Megumi Tsuyuki* 外国語学部英語学科3年

Thinking from Various Viewpoints

昨年度私は傍聴者としてスピーチを見ていましたが、今年度は参加者として会場に行きます。このスピーチは自分一人では絶対に完成させることができなかった、特別なスピーチです。本日は、スピーチを聞いてくださる皆様の日常や物事の見方がほんの少しでも何か変化するような、そんなスピーチをお届けしたいと思います。

佐藤 千春 *Chiharu Sato* 外国語学部英語学科3年

Relationship Diversity

今回、スピーチコンテスト出場という貴重な体験が出来ることを大変嬉しく思います。何事においても、伝えようという気持ちは勇気がいるけれどとても大切だと感じます。初めての挑戦で不安もたくさんありますが、“伝えよう”の気持ちを忘れずに、今日は自分のスピーチを信じて、何よりも楽しんでステージに立ちたいです。

澤井 力斗 *Rikito Sawai* スポーツ・健康科学部スポーツ科学科3年

Who Am I?

スポーツ科学科所属、さらに休学中であるにもかかわらず、このコンテストに参加することを承諾していただきとても感謝しています。得意分野ではない”スピーチ”ですが、全力で挑戦することでなんらかの成長がそこにはあるので、ひとつこの舞台から学びを得ることができたら良いなと考えています！

森下 莉帆 *Riho Morishita* 外国語学部英語学科3年

If a Race Can Be Diverse and Inclusive, Why Can't Our Society?

中学時代、運動会で目の当たりにしたクラス対抗全員リレー。そこには、まさに我々が目指すべき diverse and inclusive な社会の在り方が反映されていました。本日は皆さんの前でお話をする機会を頂けたことに感謝しています。そしてこれを機に、これからの日本社会がどうあるべきか、今一度考え直すきっかけになれば幸いです。

特別企画 英語スピーチコンテストのあゆみ

Special Event

#Diversity フォトコンテスト

最終審査発表会

スピーチコンテスト最終審査結果をお待ちの間、
本コンテストに連動して開催された、本学英語学科フォトコンテスト
の入賞作品をご覧ください。

英語スピーチコンテストのあゆみ

回	年度	テーマ	回	年度	テーマ
1	2000(H12)	テーマは自由			
2	2001(H13)	テーマは自由			
3	2002(H14)	テーマは自由			
4	2003(H15)	テーマは自由			
5	2004(H16)	テーマは自由			
6	2005(H17)	テーマは自由			
7	2006(H18)	友情 FRIENDSHIP			
8	2007(H19)	家族 FAMILY			
9	2008(H20)	平和 PEACE			
10	2009(H21)	変化 CHANGE			
11	2010(H22)	活力 ENERGY			
12	2011(H23)	絆 KIZUNA			
13	2012(H24)	記憶 MEMORY			
14	2013(H25)	再生 RE-BORN			
15	2014(H26)	Global Leader			
16	2015(H27)	Lesson from History			
17	2016(H28)	Secrets			
18	2017(H29)	Do's & Don'ts			
19	2018(H30)	Diversity			

英語スピーチコンテスト・スタッフ紹介

《実行委員会》

門脇廣文 学長(委員長)
岡本信広 国際交流センター 所長(副委員長)
静 哲人 外国語学部英語学科 教授(委員)
淡路佳昌 外国語学部英語学科 准教授(委員)
島垣 修 国際交流センター事務室 事務長(委員)
廣澤洋子 外国語学部事務室 事務長(委員)

《学生メンバー》

飛松 春香 外国語学部英語学科4年(司会)
大久保一真 外国語学部英語学科4年
大庭美季子 外国語学部英語学科4年
小山内 滉 外国語学部英語学科4年
桃 駿人 外国語学部英語学科4年
奥村勇太郎 外国語学部英語学科3年
貝瀬隼人 外国語学部英語学科3年

《審査員》

高井宏子 社会学部社会学科 教授(予選)
James McCrostie 経営学部経営学科 教授(予選)
中尾千鶴 外国語学部英語学科 准教授(予選)
梅本 孝 外国語学部英語学科 講師(予選)
藤井康成 外国語学部英語学科 講師(予選)
田村真弓 法学部法律学科 准教授(本選)
小池剛史 文学部英米文学科 准教授(本選)
Jeffrey Johnson 外国語学部英語学科 教授(本選)
北林 光 外国語学部英語学科 教授(本選)
小川エリナ 外国語学部英語学科 准教授(本選)

柴 美沙貴 外国語学部英語学科3年
松本倅輔 外国語学部英語学科3年
長野樹弥 外国語学部英語学科3年
野辺早梨衣 外国語学部英語学科3年
青柳 俊 国際関係学部国際関係学科3年
狩野友希 外国語学部英語学科2年
河合優大 外国語学部英語学科2年
増川幸希 外国語学部英語学科2年
吉田淑花 外国語学部英語学科2年
高橋奈央 外国語学部英語学科1年

《協力》

圓佛若菜 国際交流センター事務室(ポスター)
竹島典子 国際交流センター事務室(庶務)

後援 埼玉県(高校生の部) 大東文化大学青桐会
協賛 カシオ計算機株式会社 丸善雄松堂株式会社 株式会社アルク
協力 国際交流センター 外国語学部英語学科 外国語学会英語部会
地域連携センター 外国語学部事務室 管理部



CASIO



M MARUZEN-YUSHODO

発行日 2018年10月29日
発行元 大東文化大学スピーチコンテスト実行委員会
〒1875-8571東京都板橋区高島平1-9-1 大東文化大学国際交流センター内
連絡先 Tel 03-5399-7323 Fax 03-5399-7823 E-mail dbuinte@jm.daito.ac.jp
印刷 ラクスル株式会社/300部



大東文化大学英語スピーチコンテスト

検索

